

国内パブリッククラウドサービス市場予測を発表

Japan, 2020年3月18日 - IT専門調査会社 IDC Japan 株式会社 (所在地: 東京都千代田区九段北1-13-5、代表取締役社長: 竹内正人、Tel代表: 03-3556-4760) は、国内パブリッククラウドサービス市場予測を発表しました。これによると2019年の国内パブリッククラウドサービス市場規模は、前年比22.9%増の8,778億円となりました。また、2019年~2024年の年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は18.7%で推移し、2024年の市場規模は2019年比2.4倍の2兆644億円になるとIDCは予測しています。

2019年の国内パブリッククラウドサービス市場は、従来型ITからクラウドへの移行が進むと共に、新しいデジタルサービス (特にカスタマーエンゲージメントの強化を実現するモバイル / Webアプリケーション) のインフラストラクチャとしてIaaS/PaaSが高い成長を遂げました。また、比較的早い時期から提供が開始された情報系SaaSは安定成長期に入ったものの、産業特化型SaaSが数多く登場しており、国内SaaS市場は順調に成長しています。2020年の国内パブリッククラウドサービス市場規模は、1兆円の大台を超えるとIDCは予測しています。

今後の国内パブリッククラウドサービス市場は、市場規模が拡大したことによって、前年比成長率は低下していきます。一方、パブリッククラウドサービスを利用するシステム領域 (ワークロード) は、従来型ITからの移行では「情報系システム」から「基幹系システム」へ、さらには新しいワークロードとなる「DX (デジタルトランスフォーメーション)」へと、多様化 / 拡大が継続します。このワークロードの多様化 / 拡大は、一企業が採用するパブリッククラウドサービスのベンダー / サービス数を増加させることとなります。国内市場では、すでに複数のクラウドを利用するマルチクラウド化は一般化しています。しかし、同環境を統合的に管理している企業は非常に少ない状況です。現在、多くの企業はITのサイロ化がもたらす「ガバナンス / セキュリティ」「コスト削減」「データ活用」などの課題を認識しており、マルチクラウド環境へ対応することがベンダーの選

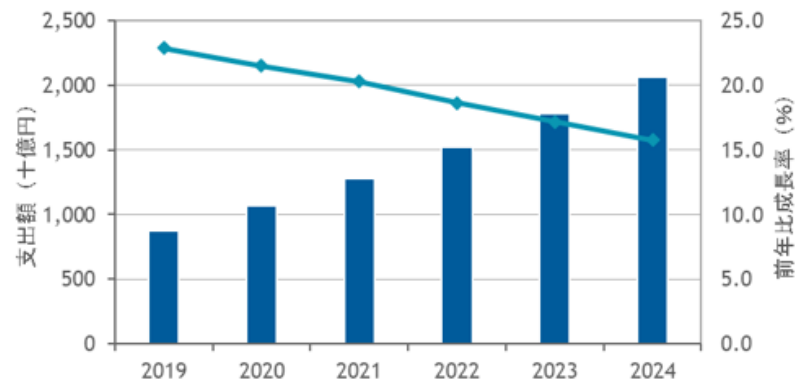
定要件となりつつあります。「ベンダーは、マルチクラウド環境への対応において『リソースの統合管理』と『データ活用を促進するプロセス / データ連携』という2つの目的を理解し、その上で差別化戦略を実行することが重要である」と、IDC Japan ITサービスのリサーチディレクターである松本聡は分析しています。

今回の発表はIDCが発行した国内パブリッククラウドサービス市場予測、2020年～2024年にその詳細が報告されています。本レポートでは、国内パブリッククラウドサービス市場の概況や動向を分析し、セグメント別に2020年～2024年の市場予測をまとめています。

< 参考資料 >

国内パブリッククラウドサービス市場 売上額予測、2019年～2024年

Figure 1



Note: 本予測では、「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 」の影響を考慮していない

Source: IDC Japan 3/2020

IDC is a subsidiary of IDG, the world's leading technology media, research, and events company. Additional information can be found at www.idc.com. All product and company names may be trademarks or registered trademarks of their respective holders.

For more information contact:

jp-Press Japan
jp-press@idcjapan.co.jp
+81-3-3556-4768